

危険タックル 男子選手を書類送検

警視庁 「反則指示なし」結論

日本大アメリカンフットボール部の選手による危険タックル問題で、警視庁は5日、タックルをした男子選手(20)を傷害容疑で東京地検立川支部に書類送検した。被害者と示談が成立していることから、刑事処分を地検にゆだねる「相当処分」とした。内田正人前監督(63)と井上稟前コーチ(30)については、反則の指示はなかったとする捜査書類を送付した。3人はいずれも不起訴になる見通し。

不起訴見通し 前監督らも

警視庁幹部によると、男子選手は昨年5月6日、東京都調布市で行われた関西学院大との試合で、パスを投げ終えて無防備な関西大のクォーターバック(QB)の選手(20)にタックルし、ひざなどに全治約4週間の

と否認しているという。

警視庁が、グラウンドにいた選手ら計195人から事情聴取し、試合映像を解析したところ、内田前監督は、頭の動きや角度から、問題のタックルの場面を見

関東学連 除名処分見直さず

危険タックルを巡っては、日大の第三者委員会

や関東学生アメリカンフットボール連盟の規律委員会が、内田前監督と井上前コーチの指示を認定し、除名や懲戒解雇処分とした。2人の刑事責任は認定されなかったが、処分の見直しなどは行われない見通し

ビックで
思い伝わる、
バレンタインを
2.14
ビックカメラ

ていなかったことが判明。無線機は故障し、井上前コーチとは会話をしていなかった。2人のやり取りを見聞きしたとする部員の証言は勘違いや思い込みで、タックルの明確な指示はなかったと結論付けた。

内田前監督の「やらなきや意味ないよ」との発言の有無については、双方の言い分が食い違い、事実認定しなかった。

止処分は、予定通り3月末

で解除するという。日大は昨年7月に2人を懲戒解雇としたが、内田前監督は大学側を相手取り、解雇は無効だとする地位確認訴訟を東京地裁に起こしている。日大企画広報部は「捜査結果を踏まえて改めて調査する予定はな

い。元指導者2人の懲戒解雇については係争中なのでコメントを差し控える」とした。

日本アメリカンフットボール協会の清水裕司専務理事は捜査結果について「静観している」としたうえで、「引き続きフェアプレー、ガバナンス(組織統治)向上への取り組みを着実に実行していく以外にない」と信頼回復に注力する考えを示した。